

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770258

研究課題名(和文)13世紀 14世紀初頭のアラゴン連合王国におけるムデハル観と国家観

研究課題名(英文)The images of "mudejar" and "state" in the Crown of Aragon in 13th and early 14th century

研究代表者

阿部 俊大(Toshihiro, Abe)

九州大学・言語文化研究院・准教授

研究者番号：60635788

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究代表者は、中世盛期のアラゴン連合王国、特にその中核地域であったバルセロナ伯領では、イスラーム地域を征服した後、どのようにイスラーム住民を取り込みつつ国土・国制を整備していったのか、また教皇庁など、教会勢力はそこにどのように関わっていたのか、同時代史料を用いて分析を進めた。その成果として、3年間の間に、各年次報告書に記載された著書1冊・論文3点(学術雑誌掲載2点・著作(論文集)所収1点)・国際学会報告1回・国内学会報告1回にまとめられ、公表されている。

研究成果の概要(英文)：I have studied the State-formation of the Crown of Aragon, especially its center-part, the County of Barcelona, in the High Middle Ages; How they formed their state after the conquest against the Muslim people and how they treated the Muslims on the State-formation, and how the Church, especially the Popes, was involved in it. I have studied these themes using the documentos of the age and the results were presented as a book, three academic articles, and one report on an international academic meeting and one on an academic meeting in Japan.

研究分野：西洋史学

キーワード：アラゴン連合王国 バルセロナ伯領 ムデハル レコンキスタ 教会 教皇庁

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ史の中で、中世イベリア半島は我が国においてもっとも研究が進んでいない領域の一つである。イベリア半島については、大航海時代開始から「太陽が沈まない」帝国と呼ばれた黄金時代にかけての近世史か、スペイン内戦前後の現代史に研究が集中している。稀に中世史が研究されることがあっても、異文化交流など偏った領域の研究のみが、「エキゾチックな話題を提供してほしい」といった見方で取り上げられることが多かった。

近年、欧米学界で中世イベリア半島についての研究が盛んになるにつれ、我が国でもようやく同地域・同時代の政治的・社会的側面についての研究が進捗しつつあるが、その中でも、当該地域における国家観や社会観、特にムスリム住民に対する認識についての研究は未だほとんど行われていない。

本研究では、中世のイベリア半島、その中でも特にアラゴン連合王国の事例に着目して、イスラーム勢力を征服した後、どのようにして彼らを包含する国家を形成し、そこではムスリム住民に対して、また社会や国家について、どのような意識が形成されたのか、それはヨーロッパの他の地域と比較してどのような特徴を呈していたのか、その一端を解明することを試みた。

2. 研究の目的

中世後期(14 - 15世紀頃)の西欧では、近代以降の「国民国家」につながる領域の確定や中央集権化の動きが進行した。その動きは、反面、英仏におけるユダヤ人追放、カスティーリャやシチリアでのイスラーム系住民の各地や人口減に表れる、「他者」を排除していく過程でもあった。

本研究では、当時の西ヨーロッパで例外的に多くのイスラーム系住民やその共同体の存在が許容されていた、イベリア半島のアラゴン連合王国を対象に、「他者」を許容していく過程とその国家観への影響を分析し、同王国、さらには地中海地域が西欧の他の地域に対して有していた政治的風土の特徴、ひいては中世西欧における政治思想の多様性とそれが有していた可能性の一端の解明を試みた。

3. 研究の方法

1年目は、アラゴン連語王国内のバレンシア地方においてムデハル住民が許容されていた過程を、当該地方の征服(1240年代)からシチリアの晩鐘(1282年)頃までの約半世紀、国王ジャウマ1世(1213 - 1276年)とペラ2世(1276 - 1285年)の治世を対象に分析した。

その際、土地分配記録や入植許可状その他の国王文書を史料として分析対象とした。その多くは『バレンシア等土地分配記録』『バレンシア王国中世入植許可状集』『バレンシア慣習法集』『ジャウマ1世文書集』『ペラ大王(2世)文書集』などの名で刊行されており、同時期の在地の財版記録や土地売買文書も、その多くはバーズによって編纂され、『十字軍王国バレンシア証書集』の名で刊行されている。これらの史料を利用し、国王の政策と在地の状況を対照させつつ、ムデハルが置かれていた状況とその推移の分析を進めた。

2年目は、計画当初の予定では、国王の自伝や著作、すなわちジャウマ1世の『事実の書』や『知恵の書』、また後継者であるペラ2世やアルフォンソ2世(1285 - 1291年)やジャウマ2世(1291 - 1327年)の書簡等を分析し、国王のムデハル観や国家観を分析することを予定していた。また、合わせて当時の知識人の著作、具体的にはデスクロットやムンタネルがそれぞれ著した2点の『年代記』や、下級貴族出身の思想家ラモン・リュイの著作『騎士階級の書』『農夫と3人の賢者の書』などから、連合王国内の知識人層のムデハル観や国家観を分析する予定であった。

しかし、これらの分析を進める過程で、この時期(13世紀前後)ローマ教皇庁がイベリア半島諸国に対し、内政や外交など多くの面でたびたび介入していたこと、また、イスラームに関連する政策にも干渉していたことが明らかとなってきた。また、上記の史料のみでは、情報に限りがあり、研究の深化にも制約が生じることが明らかとなってきた。このため、同地域の国家観やムデハル観がより顕在的に現れる事象として、ローマ教皇のイベリア半島諸国に対する政策と、それに対する諸国の対応に重点を置いて研究を進めることとした。

具体的には、ローマ教皇権史が歴史上最も強い影響力を誇ったとされる、教皇インノケンティウス3世(1198 - 1216年)・ホノリウス3世(1216 - 1227年)・グレゴリウス9世(1227 - 1241年)の3代の治世に注目し、これらの教皇の勅書群を分析して、彼らのイベリア半島諸国に対する政策、具体的にはアラゴン連合王国とカスティーリャ王国に対する政策の特徴の解明を試みた。

2年目の研究が概ね順調に進展したので、3年目も同じ方向で研究を進めた。上記の3人の教皇の文書に加え、教皇インノケンティウス4世(1241 - 1254年)の教皇勅書群も分析対象とし、教皇庁のイベリア半島諸国に対する政策や、それに対するイベリア側の対応について、特に国内外のイスラーム教徒に関連する政策を軸に、研究を進めた。この時期は、フリードリヒ2世を中心とした、シュタウフェン朝と教皇庁の激しい争いが展開され、続く時期にはシュタウフェン朝にかかわ

でシャルル・ダンジューの影響力が強化されるという、西欧中世政治史上の節目となる時代であり、続く時期のロドルフ1世の皇帝選出とハプスブルク家の台頭、シャルル・ダンジューへの広範な反発を背景とした「シチリアの晩鐘」の発生などを考える上でも重要な時期であり、それらの複雑な外交状況を踏まえつつ、分析を進めた。また、最終年度であったため、積極的な成果の公表にも努めた。

4. 研究成果

2年目は、研究成果として、英語論文1点を公刊し、また、チリで開催された国際学会でスペイン語による研究発表を行うことが出来た。

英語論文は、バルセロナ伯領のタラゴーナ地方における、12 - 13世紀のキリスト教徒の植民と支配構造の形成過程を分析した論考であり、スペインのリエイダ大学の主任教授であるフローセル・サバテ氏編纂の本(論文集) *Life and Religion in the Middle Ages* に収録された。

研究報告は、イベリア半島諸国に対するインノケンティウス3世からグレゴリウス9世にかけての政策を扱ったものであり、それらの政策に、教皇ごと、また王国ごとにかなりの差異が見られたこと、またそれらは必ずしも各々の王国の状況を踏まえたものではなく、肯定的に受容されたわけでもないことを明らかにすることが出来た。

3年目は、3年間の研究成果をも踏まえ、単著『レコンキスタと国家形成』を九州大学出版会より刊行することが出来た。

また、学術雑誌『歴史と地理』にレコンキスタに関する論文1点を掲載することが出来た。

さらに、九州史学会大会において、チリでの報告を深化させつつ、13世紀前半教皇庁とイベリア半島諸国の関係に関する報告を行うことが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

阿部俊大「レコンキスタと中世スペインの政治構造」『歴史と地理』699号、2016年、57 - 60ページ、査読無。

〔学会発表〕(計 2件)

阿部俊大「13世紀前半のローマ教皇庁のイベリア半島諸国に対する政策」、九州史学会平成28年度大会、2016年12月11日、九州大学。

Toshihiro Abe, "La política de Honorio III (1216-1227) y Gregorio IX (1227-1241) en la Corona de Aragón (アラゴン連合王国における教皇ホノリウス3世とグレゴリウス9世の政策)", IV Simposio Internacional de Estudios Medievales, 2015年10月28日、チリ国サンティアゴ市、ガブリエル・ミストラル大学

〔図書〕(計 2件)

阿部俊大、九州大学出版会、『レコンキスタと国家形成 アラゴン連合王国における王権と教会』、2016年、325ページ。

Toshihiro Abe, "The Ecclesiastical Policy of the Counts of Barcelona in a Conquered Region: The Relationship between the Counts and the Archbishopric of Tarragona in the 12th and 13th Centuries", F. Sabate (ed.), *Life and Religion in the Middle Ages*, Cambridge Scholars Publishing, 2015, pp. 67-102

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
特に無し。

6. 研究組織

(1)研究代表者
阿部 俊大 (ABE, Toshihiro)

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：60635788

(2)研究分担者 特に無し。

()

研究者番号：

(3)連携研究者 特に無し。
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()